



## 『お客様が生涯、快適に住まえる家造り』を大切に、時代の変化に柔軟に対応

株式会社協栄ホーム 奈良県奈良市

地元の大工に始まり、工務店、不動産分譲事業への進出を経て成長してきた株式会社協栄ホーム。滋賀県への進出やリフォーム事業、複合ビル建設、不動産管理業等、時流を捉えた柔軟な発想により事業の多角化を図ってきた。

『お客様が生涯、快適に住まえる家造り』を大切に、伝統的な木造軸組工法による住宅建築を手掛けてきた同社が新たに取扱うのは、構造材に2×6（ツーバイシックス）材を使用した、枠組壁工法の「カナダ輸入住宅」。耐震性に優れた新商品により、今後も快適な住環境を提供し続ける。

### 会社概要



会社名：株式会社協栄ホーム  
所在地：奈良市三条大路1-10-50  
協栄ビル  
電話：0742-30-3751  
FAX：0742-30-3752  
設立：1994（平成6）年5月  
代表者：代表取締役 久保西 勇治  
資本金：1,000万円  
従業員：10名  
事業内容：総合建設、分譲住宅及び  
不動産業務全般  
URL：<http://www.kyoeihome.com>

### 工務店を構えているだけでは、お客さんは来ない

奈良県内を中心に、伝統的な木造軸組工法（在来工法）による住宅建築や不動産分譲事業を手掛ける株式会社協栄ホーム。創業は、現代表取締役の久保西勇治氏（67歳）が、川西町結崎にて兄弟や知人とともに大工を始めたのが発端である。

当時は、社長自らが地元の農家を軒ずつ訪問し、家屋の新築・建替え等の営業を行っていた。「おカネはどこにでも転がっている—アンテナを高く張っておけば、どこにでもビジネスチャンスはある—」苦勞の多かった創業当時の思いを、社長は今も大切にしているという。

あるとき自宅兼事務所を移転することとなり、新居の内外装の参考にと、モデルハウスが並ぶ住宅展示場を訪れた社長は「新築を考えている人は皆、住宅展示場へ家を見に行く。工務店を構えているだけでは、お客さんは来ない」ということに思い至った。住宅展示場での体験は、社長を攻めの経営へと駆り立てた。

### 不動産分譲事業への進出

社長はそれまで工務店一本だった事業内容を見直し、不動産分譲事業にも本格的に進出することにした。分譲に適した土地を買い付け、広告を打ち、造成した宅地には「スカイタウン」と名付けた。天理市や川西町をはじめ、奈良市、生駒市など県内各所にて20戸から最大68戸の分譲プロジェクトを手掛け、現在では累計300戸近い分譲・建築実績を有している。

また、滋賀県にも進出し、32戸の宅地分譲を行ったほか、リフォーム事業や複合ビル建設、不動産管理業にも進出するなど事業の多角化を図った。



本社が入居する協栄ビル

## リフォーム事業の不振と新たなビジネスチャンス

リフォーム事業については、主力のひとつとして広告にも注力するなど強化を試みたが、競合他社が多いうえに、一件あたりの工事も規模の小さいものがほとんどであり、収益が見込めるのは大規模な改築に限られていた。

同事業の不振に直面した社長は、今後の事業展開について「いかに競合他社との差別化を図り独自性を打ち出していか」を真剣に考えていた。オリジナリティを発信していかなければ、地域の住宅市場において生き残っていくことはできない。

次なる一手を模索する中、同社が掴んだ新たなビジネスチャンスが、カナダ輸入住宅のハウスメーカー、セルコホームとのフランチャイズ（FC）契約だった。

## 耐震性に優れたセルコホームのカナダ輸入住宅

セルコホームは全国各地にFC加盟店を有しているが、奈良県では同社が唯一の加盟店となる。

そのセルコホームが手掛けるカナダ輸入住宅は、枠組壁工法が採用されており、構造材には高い限界耐力を誇るカナダ産の良質な木材を使用、しかも一般的に用いられる2×4（ツーバイフォー）材（38×89mm）よりも断面が大きい2×6（ツーバイシックス）材（38×140mm）のため、約2.5



同社が手掛けた  
分譲・建築物件



倍の強度を持ち耐震性に優れているのが特徴。

東日本大震災の教訓から、社会的に耐震性が強く意識される中、カナダ輸入住宅はそうした客層のニーズに合致した新商品といえる。

## 『お客様が生涯、快適に住まえる家造り』

「人間、生涯をいかに快適に、満足して過ごせるかが大事だ」と語る社長。「社員には『お客様の家は自分の家』と思って仕事をするよう常々伝えている」という。そこには大工としての家づくりに賭けるこだわりだけではない、人を思う温かさが感じられる。

同社では、社長の『お客様が生涯、快適に住まえる家造り』という思いにもマッチした商品として、本年より本格的にカナダ輸入住宅に注力していくこととなっている。

また、現在同社では県内および滋賀県にて最大50戸程度の大型分譲プロジェクトを複数進めているほか、新たに建具や室内装飾等、輸入雑貨のネット販売も検討中。

地元の大工に始まり、住宅建築と不動産分譲事業をベースに、時代の変化に柔軟に対応し発展を遂げてきた同社。今後も、多くの人々に快適な住環境を提供し続けていこう。

（前田 徹、島田清彦）



セルコホームの  
カナダ輸入住宅

